

## 2019 台湾・地方創生元年

歐元韻

今回は台湾と日本の共通する課題の「地方創生」について取り上げてみたいと思います。

### くいままでの取り組み

9月には台北(9/14~23)と東京(9/21~30)にて「デザインによる台湾・地方創生展」が開催されました。現在、台湾では都市部と地方における経済発展に大きな開きが生じており、生活環境面での不均衡差、地方の生活サービス施設不足、都市部への人口集中に伴う若年層流失、地域産業空洞化、深刻な少子高齢化等の社会的課題が山積みです。そこで日本の取組に注目し、台湾でもクリエイティブ産業やデザインのちからを中心とした地方創生、地域活性化を図る試みを始めました。

特にデザインは新商品の開発、歴史的建造物のリノベーション、コミュニティの開発等で果たす役割が台湾でも俄然注目され、早速プロジェクトチームが結成されました。今回の地方創生展はいわばその成果を披露する為の展示会でもありました。勿論、過去にも客家(ハッカ)民族(注1)の特色を活かす為の産業発展プロジェクトにて関連商品のデザイン性を強化したり、歴史的建造物をリノベーションした「松山文創園區」、「華山文創園區」、「四四南村」等は台北の文化創造活動拠点として人々の人気レトロスポットに生まれ変わった例は数多くあります。

(写真：松山文創園區)



計画当初の2016年には台湾最南端の屏東県の東港地区と離島の金門島二か所がモデルケースとして選ばれ、2017年には17の地方行政政府への第一段階支援事業が行われました。そうしたなかで台南市官田のヒシの実殻炭を利用した衛生製品開発、同じく台南白河地区の特産品、宜蘭県移住者参加の豊作祭り、お茶の里南投竹山や新北市でも職人と触れ合う伝統工芸体験小旅行、高雄市六龜地区地域の再生等、次々と一定の成果が生まれてきました。

今後は更に第二段階の支援事業に九つの地方行政政府が予定されており、今後益々の地方活性化を実現する為に行政院の賴院長が掲げたスローガンが「2019年台湾・地方創生元年」宣言です。今回の様に中央政府のもと台湾デザイン業界が一致団結して街づくりに携わるのは台湾初の試みです。



(写真：台湾良品コーナー)

### く今後の試み

また地方創生事業として台湾政府は特別予算を組み「地方型産業園區」構想もスタートさせております。2021年での実施完成を目処に政府と台湾を代表する企業や業界団体トップとの会合が積み重ねており、私個人としては台湾の地方創生には欠かせないプロジェクトとして注目しております。

### く広島と台湾をつなぐ

先日は広島県呉市の観光PRが台北市であり、私も呉市のゆるキャラ「クレくん」と会って楽しい時を過ごしました。私自身は台湾人ですがこの様な機会を通じ台湾の人達が少しでも広島の各地に興味を持ってもらえる事とても嬉しく思いました。現在では広島を訪れる台湾の人達も少なくないとは思いますが、今後はもっと地元の人達や企業との交流が深まるような機会創生が計られ、広島と台湾の間でも文化観光産業型の事例が増える事を期待しています。



注1：客家とは、客家語を話す漢民族の人々のことで、かつて中国の華北から移住してきた漢民族の一派である。台湾在住の客家人は約453万人であり、台湾人口の19.3%を占める。